

小平市公共施設マネジメントニュース

平成31年3月号

第2部 第2回 中央・小川デザインカフェ ～次の世代の施設を考えよう～

将来の人口減少、少子・高齢化など、公共施設を取り巻く環境が変化中、市ではこれからの公共施設のあり方等について取組む公共施設マネジメントを推進しています。

中央公民館・健康福祉事務センター・福祉会館・西部市民センター・小平元気村おがわ東の複合化など基本計画の策定を、市民参加で進めています。

中央・小川デザインカフェ（ワークショップ形式）では、参加者同士でリラックスした雰囲気の中、中央公民館周辺エリアと小川駅周辺エリアの各テーマについてアイデアを出していきます。

市では、市民参加などを経て平成31年秋を目途に新しい公共施設に関する基本計画を策定する予定です。

【参加状況】平成31年2月17日（日）

① 中央公民館周辺エリア：福祉会館 小ホール	10時～正午	18名
② 小川駅周辺エリア：小川西町公民館 ホール	14時～16時	13名

【中央デザインカフェ】



テーマ：新建物の運営方法などを考えよう

全体進行：これまでの内容の振り返りを行い、参加メンバーで情報共有した後に、グループ毎にワークをし、発表を行う。

ワーク：第2部第1回と同様に「誰もが使いやすい施設の工夫」「利用者にとっての魅力」「長期的に維持するための工夫」について3グループに分かれ、担当テーマ毎にワーク①～⑤を行う。

ワーク①：財政負担を考慮しつつ質の高い行政サービスを守る視点

ワーク②：市民が企画を持ち込んで活用するための視点

ワーク③：民間を巻き込んで地域の賑わいを維持する視点

ワーク④：地域の拠点を子どもたちに伝えていく視点

ワーク⑤：この施設で働くために求められる視点
ワーク後に、「一番難しかったワーク」、「一番盛り上がったワーク」、「一番伝えたい点」について発表を行う。

【小川デザインカフェ】



テーマ：誰もが楽しめるにぎわいの場を考えよう

全体進行：これまでの内容の振り返りと第一部の意見を踏まえた公共床部分のゾーニングのイメージ図の紹介を行い、参加メンバーで情報共有した後に、グループ毎にワークをし、発表を行う。

ワーク①：新しい公共空間でどのように過ごしたいか、時間軸でのパターンを考える。

ワーク②：その過ごし方をするためにあったら良いと思う企画や運営の工夫、アイデアを考える。

ワーク③：グループのみんなが望む過ごし方のために、どんな運営や取組が必要かを考える。

ワーク④：それらの運営や取組をするスタッフが自分だったとしたら、どんな風に働きたいかを考える。

ワーク後に、「過ごし方の共通点」、「過ごし方の相違点」、「みんなの望みを叶えるための工夫」、「どんな風に働きたいか」について発表を行う。

1 ※各グループの主な意見は裏面にまとめていますので、ご覧ください。

主な意見

【中央デザインカフェ「新建物の運営方法などを考えよう」】

Aグループ『誰もが使いやすい施設の工夫』

- 一番難しかったワーク…「施設で働くために求められる視点」が難しかった。施設の問題なのか、制度の問題なのか、嘱託職員などの雇用期間等に関する話題などが出た。
- 一番盛り上がったワーク…「施設で働くために求められる視点」が、誰もが働きやすい、接しやすいためにという話題で盛り上がった。
- 一番伝えたい点…「地域の拠点を子どもたちに伝えていく視点」で、子どもたちが集まれるフリースペースは必要であり、そういうスペースがあると、子どもを連れて子育て世代の方々が訪れやすくなるのではないかと。

Bグループ『利用者にとっての魅力』

- 一番難しかったワーク…全部難しかった。
- 一番盛り上がったワーク…「財政負担を考慮しつつ質の高い行政サービスを守る視点」で、窓口を改良する内容に関して盛り上がった。総合的に対応する窓口と必要に応じて細かな専門的な窓口に分かれていく、2段階で対応する窓口はどうか、といった話題が出た。
- 一番伝えたい点…スタッフの対応について、全体的な業務を把握し、利用者の抱える問題を解決し、また理解している人、コンサルタントのような人がスタッフとして配置していると良いのではないかと。

Cグループ『長期的に維持するための工夫』

- 一番難しかったワーク…「民間を巻き込んで地域の賑わいを維持する視点」で長期的維持を検討することが難しかった。省エネや耐震性能など、誰もが行きやすい場所は誰でも使いやすいのではないかと。
- 一番盛り上がったワーク…使いやすさに関する話題は盛り上がった。市民がやりたいことを行政が応援し、実現に向けてサポートしてくれると良いのではないかと。
- 一番伝えたい点…要望に対して柔軟に対応してくれること、また市の職員も市民も一緒にネットワークをつくり、利用者皆で盛り上がるのが大切なのではないかと。

【小川デザインカフェ「誰もが楽しめるにぎわいの場を考えよう」】

Aグループ

- 【過ごし方の共通点】団体登録して利用すること、またフリースペースで自己研鑽や活動することなど。
- 【過ごし方の相違点】みんなの目的が異なること。
- 【望みを叶える工夫】食事や休憩など自由に、時間に縛られず、誰もが使えるスペースとすることなどはどうか。
- 【どんなふうに働きたいか】笑顔で接遇が良く、地元を知る地域のコーディネーターのようなスタッフはどうか。

Bグループ

- 【過ごし方の共通点】食べる、飲む、学ぶ、子どもと過ごす、サークル活動、音楽活動、料理、読書など。
- 【過ごし方の相違点】寝転んで何かをしたい、育児や子育ての相談をしたいなど。
- 【望みを叶える工夫】寝転がれる大きなソファの設置、子ども一時預かり機能、カフェ等を充実するなどなどはどうか。
- 【どんなふうに働きたいか】声かけする「おせっかい活動」をすること、カウンセラーや遊びの専門家がいることなどはどうか。

Cグループ

- 【過ごし方の共通点】午前は活動的に過ごす。午後は友人と過ごす、昼寝をするなどリラックスする。
- 【過ごし方の相違点】夜は活動的に過ごしたい人と、休養するなど仕事の疲れなどを癒したい人に分かれた。
- 【望みを叶える工夫】それぞれの過ごし方を尊重し、空間を間仕切りで区切ることや防音整備を行うなどはどうか。
- 【どんなふうに働きたいか】多世代、外国人など多様な方々が働き、新たな気づきができる職場なら働いてみたい。

※参加人数の関係から3グループにて実施

第2部第1回（H31.1.19開催）中央デザインカフェにおいて、「運営」を検討する上で知りたいことについて、いただいたご質問内容に対する回答に関して、第2部第2回（H31.2.17開催）中央デザインカフェで回答を参考資料として配付しました。当日の資料を掲載いたしますので、参考にご覧ください。



第2部第2回 中央デザインカフェ
運営ルールを考えていくうえで知りたいことに対する回答や考え方

Q1 （仮称）新築物の配置場所はどこか。また、土地についてどのくらいのスペースを考えていて何人くらいの人が必要だと考えているか。施設が合わさるから今までの何倍くらいを考えているか。

→（仮称）新築物は福祉会館前市民広場に建築する予定です。広場内のどこに建設するかは未定です。
現段階において（仮称）新築物は、福祉会館前市民広場に建設を予定しています。福祉会館前市民広場の面積は 2,191.47 m²です。なお、建設可能な規模の算定に当たり、福祉会館を取り壊す要件を満たした場合は、福祉会館の土地面積（6,434.73 m²）を含め、延べ床面積が約 17,200 m²まで建築可能となります。現段階で（仮称）新築物の規模等は未定ですが、公共施設マネジメントの視点を踏まえて検討を進めます。

Q2 建物スペースをイメージしやすい形でほしい。

→現状ではお示しできる図面などは用意できませんが、（仮称）新築物の敷地や建物の配置等については、基本設計の段階においても、市民との意見交換を行いながら確定する予定です。

Q3 最低限必要な機能は何か。

→中央公民館、福祉会館及び健康福祉事務センターを統合するため、これらの機能が中心になると考えています。

Q4 中央公民館の稼働率とその床面積の総量はどのくらいか。また、福祉会館の機能、利用率、特に5階のホールの利用率はどのくらいか。

→中央公民館の延べ床面積は、約 4,200 m²です。中央公民館の稼働率は、小平市公共施設白書（平成 27 年 2 月発行）では約 55% となっています。
福祉会館の主な機能について、5階は市民ホール、4階は小ホール・第5集会室・社会福祉協議会法人事務局・生活相談支援センター・小平市歯科医師会、3階は第1～第4集会室・談話室・こだいら就職情報室・ボランティア活動室、2階は小平市障がい者地域自立生活支援センターひびき・権利擁護センターこだいら・デイサービスセンター・「子育て・女性相談室」、1階は福祉会館事務室・和室ホール、地下1階は浴室・娯楽室・ヘルストロン室となります。福祉会館の利用率は、全体で約 54%です。5階の市民ホールは約 78%です。

Q5 小平市役所に来所する利用者のなかで一番利用者が多い窓口はどこか（一日何人くらい）。どの行政サービスを移動することは可能ですか。

→市役所の全ての窓口で集計したものはなく、比較することはできません。市民課の窓口件数は平成 29 年度で約 26 万件の届出等があります。窓口サービスの実施場所を移動することは、その効果や影響を踏まえて、市で検討します。

Q6 駐車場、現状での利用状況（平均、最大台数、不足状況）はどのくらいか。

→駐車場の利用状況に関するデータはありません。最大台数では、福祉会館 57 台（一般用 55 台、身障者用 2 台）、中央公民館 106 台（一般用 99 台、身障者用 7 台）、健康福祉事務センター 23 台（一般用 19 台、身障者用 4 台）となります。（「公共施設の会議室・集会室等の利用案内」等より）

Q7 全体の総面積、予算の見込額、財源はどうか

→中央公民館（約 4,200 m²）・健康福祉事務センター（約 1,600 m²）・福祉会館（約 4,500 m²）・西部市民センター（約 2,000 m²）、小平元気村おがわ東（約 3,300 m²）を合計すると約 15,600 m²となります。市民意見交換会でお示した「複合化等の方向性の基本路線（案）」では、上記の既存建物 5 施設を（仮称）新建物・小川駅西口公共スペース・小平元気村おがわ東にまとめていくとされています。（仮称）新建物の延べ床面積に関して、既存建物 5 施設の 15,600 m²に小平市公共施設マネジメント基本方針で掲げる延べ床面積 20%縮減を行い、小川駅西口公共スペース（約 3,450 m²）及び小平元気村おがわ東（約 3,300 m²）の面積を差し引いた残りの面積は約 5,730 m²となります。また、小平市公共施設マネジメント推進計画での建築単価 55 万円を面積に乗じた金額は、約 31 億 5 千万円となります。財源は、補助金や市債（借金）などが考えられます。

Q8 年間の使用料総額（今免除されている）や年間の公民館の光熱費はどのくらいか。

→小平市公共施設白書では、公民館全体の歳入は年間約 200 万円で、光熱費を含めた歳出は平均約 3 億 8 千万円となります（参考中央公民館での歳入は年間約 100 万円で、歳出は約 1 億 4 千万円）。仮に減免を全く行わなかったと試算すると、使用料歳入は公民館全体で年間約 6,000 万円となります。

Q9 市民から徴収が必要な利用料の想定状況はどうか。

→施設の性格や規模により検討が必要となります。小平市公共施設白書では、現在施設の維持管理に充当している個人市民税が 2060 年度には 2010 年度との比較で 71 億円減少（126 億円→55 億円）となる見込みです。また、今後の社会保障関係費の増加も想定しており、公共施設マネジメントの観点から、受益者負担への理解のみならず、延べ床面積の縮減、民間事業者のノウハウの活用などにより持続可能な施設運営を行う必要があります。

Q10 市は市民団体に管理・運営をまかせる気はあるか。

→市民団体も管理・運営に関する担い手の候補であると考えていますが、具体的にどこをどのような形で担っていただくかについては、検討の余地があります。

Q11 ぶるぺーの著作権使用許可の状況はどうか。

→許可は必要なく、原則、自由に使用可能です。

Q12 新たな場所の周辺地域の住民との日照権問題、騒音問題に対策はたてられているか。

→建築基準法など関連する法律の規定に従って建設します。近隣にお住まいの方には、居住環境が変化することも考えられますので、計画段階から情報提供を行い、地域から喜ばれる施設づくりに努めます。

Q13 近隣住民の声の集約はどのようにするのか。

→現在、個別に出席講座などを行っています。また、近隣住民に対して、アンケートを実施して意見の集約を行う予定です。

Q14 エスカレーターの設置コスト、必要スペースはどうか。

→概算では、1 階当たり設置コストは約 4,000 万円、必要スペースは約 20 m²となります。なお、エスカレーターは駅や大規模店舗など大量の垂直移動に向く設備であり、需要やコストの面から（仮称）新建物への設置は現在のところ考えていません。

【お問合せ】 小平市 企画政策部 公共施設マネジメント課

〒187-8701 小平市小川町 2-1333 TEL042-346-9557 FAX042-346-9513

メールアドレス facility-mg@city.kodaira.lg.jp

小平市公共施設マネジメントニュース

平成31年4月号

第2部 第3回（最終回）中央・小川デザインカフェ ～次の世代の施設を考えよう～

将来の人口減少、少子・高齢化など、公共施設を取り巻く環境が変化する中、市ではこれからの公共施設のあり方等について取組む公共施設マネジメントを推進しています。

中央公民館・健康福祉事務センター・福祉会館・西部市民センター・小平元気村おがわ東の複合化など基本計画の策定を、市民参加で進めています。

中央・小川デザインカフェ（ワークショップ形式）では、参加者同士でリラックスした雰囲気の中、中央公民館周辺エリアと小川駅周辺エリアの各テーマについてアイデアを出していきます。

市では、市民参加などを経て平成31年秋を目途に新しい公共施設に関する基本計画を策定する予定です。

【参加状況】平成31年3月17日（日）

① 中央公民館周辺エリア：福祉会館 小ホール	9時30分～正午	19名
② 小川駅周辺エリア：小川西町公民館 ホール	14時～16時30分	15名

【中央デザインカフェ】



テーマ：地域に愛される新建物を目指そう

全体進行：これまでの内容の振り返りを行い、参加メンバーで情報共有した後に、グループ毎にワークをし、発表を行う。

ワーク：第2部第2回と同様に「誰もが使いやすい施設の工夫」「利用者にとっての魅力」「長期的に維持するための工夫」について3グループに分かれ、担当テーマ毎にワーク①～⑤を行う。

ワーク①：財政負担を考慮しつつ質の高い行政サービスを守る視点を再び議論し、発表する。

ワーク②：市民が企画を持ち込んで活用するための視点を再び議論し、発表する。

ワーク③：民間を巻き込んで地域の賑わいを維持する視点を再び議論し、発表する。

ワーク④：地域の拠点を子どもたちに伝えていく視点を再び議論し、発表する。

ワーク⑤：この施設で働くために求められる視点を再び議論し、発表する。
全体を通して、共通点などを出す。

【小川デザインカフェ】



テーマ：小川駅前の未来予想図を描こう

全体進行：これまでの内容の振り返りを行い、参加メンバーで情報共有した後に、グループ毎にワークをし、発表を行う。

ワーク①：「こんなことがしたい」「こんな風に使いたい」というニーズを市民が協力しながら実現できる場所であり続けるための取組を考える。

ワーク②：次世代が愛着を持てる場所にし続けるための取組を考える。

ワーク③：4・5階公共床と市民広場とのつながりを考える。

ワーク④：小川駅西口駅前とその周辺エリアの未来予想図を描こう、をテーマに考える。
ワーク後に、発表を行う。

※各グループの主な意見は裏面にまとめていますので、ご覧ください。

主 な 意 見

【中央デザインカフェ「地域に愛される新建築物を目指そう」】

1 財政負担を考慮しつつ質の高い行政サービスを守る視点

・中央エリアの魅力である駐車場スペースは十分確保しつつ、場所や時間帯により一部有料化するなど、財政収入を得る検討も必要ではないか。

・複合する機能の窓口を一つにまとめるなどにより、効率性やサービスの質も向上につなげることはできないか。

2 市民が企画を持ち込んで活用するための視点

・過去のイベント情報の保存を行いアーカイブ化することで、公共施設でできることを見つけやすくしてはどうか。

・企画立案から実現までの段階的手順を示し、各段階でのフォローや関係団体とのマッチングをしてはどうか。

3 民間を巻き込んで地域の賑わいを維持する視点

・民間事業者が地域に貢献でき、かつビジネスにつながる要素があることが必要ではないか。

・行政と市民が協働して、民間事業者の企画をきちんとチェックし、マッチングさせることはどうか。

4 地域の拠点を子どもたちに伝えていく視点

・入りやすいエントランス、自由に過ごせるロビーなど、子どもたちが過ごしやすい場として演出することが大切ではないか。

・企画を工夫し、多世代交流を促すことにより、子どもたちの思い出や愛着につながり、大人になってからの活動にもつながるのではないか。

5 この施設で働くために求められる視点

・市が運営等について委託等を行った場合でも、市と事業者等との連携体制が構築されていることで、利用者への対応などが円滑に行われることが大切ではないか。

・利用者とのコミュニケーションをしっかりと、笑顔あふれる施設にしていくことなどが大切ではないか。

【小川デザインカフェ「小川駅前の未来予想図を描こう」】

ワーク1：「こんなことがしたい」「こんな風に使いたい」というニーズを市民が協力しながら実現できる場所であり続けるための取組みを考える

A：市民の行事や活動の内容が、モニターなどを通じて視覚的に発信できるようになると良いのではないか。

B：企画検討を市民等で行い、大学、福祉施設、保育園などと調整しつつ、様々な人が使いたいと思えるようなイベントを行うことが良いのではないか。

C：市民同士で情報交換できる掲示板などがあると良いのではないか。

D：相談窓口のような形でニーズを把握し、やりたいことの実現のための助言やサポートがあると良いのではないか。

ワーク2：次世代が愛着を持てる場所にし続けるための取組みを考える

A：市民広場を毎週土日は子どもの日にするなど、思い出の場所となるような取組を行うことはどうか。

B：小川のことを知らない人も多くいると思うことから、小川の歴史などを伝える取組を行うことはどうか。

C：お祭りやイベントにスタッフとして携わってもらうことで、愛着の形成につながるのではないか。

D：様々な世代が交流できるようにしつつ、学生や子どもにピンポイントで魅力的な企画の提案などをしていくことで、その友達などに輪が広がっていくのではないか。

ワーク3：4・5階公共床と市民広場のつながりを考える

A：市民広場でも使用可能な椅子などを準備して、市民広場で図書の貸し借りもできるようにしてはどうか。

B：トリックアートなどを活用し、市民広場から4・5階へ見上げる工夫などをして興味喚起をしてはどうか。

C：市民広場で青空図書館のほか、お話し会の出張など図書館の活動を見せてはどうか。

D：市民広場と4・5階との連動性をもったイベントを実施してはどうか。

ワーク4：小川駅西口駅前とその周辺エリアの未来予想図を描こう

A：活気があり、自然と調和して、将来を担う子どもたちに負担をかけないようなまちはどうか。

B：市外から人が来るような取組みを行い、商店街が活気づき市外の人がたくさんお金を使ってくれるまちはどうか。

C：障がいのある人もない人もコミュニケーションが取れ、新しいことにチャレンジできるまちはどうか。

D：生活しやすく、落ち着くエリアであり、福祉のまちとしてバリアフリーに特化するまちはどうか。

【お問合せ】 小平市 企画政策部 公共施設マネジメント課

〒187-8701 小平市小川町2-1333 TEL042-346-9557 FAX042-346-9513

メールアドレス facility-mg@city.kodaira.lg.jp